

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣
医
の
カ
ル
テ



28



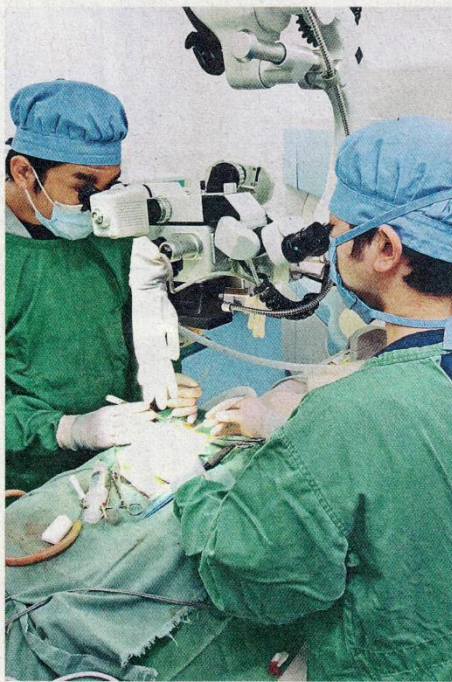
よつや動物病院長
(高岡市四屋)

和田 章秀

日増しに寒さが厳しくなっ
てまいりました。いかがお過
ごしでしょうか？ 今年度は重
なる台風があり、富山も大き
な被害を受けました。秋は台
風などの影響で気圧の変動が
大きい季節です。気圧の変動
が大きいとペットのてんかん
発作が増えると言われています。
そこで、てんかん発作を起こ
す脳の病気について紹介し
たいと思います。

一般的にてんかん発作は、激
しいけいれんが起き、飼い主
さんの精神的な負担も大きな
症状です。当院でも緊急で来
院していただくケースが多く
占めています。このような全
身性のけいれんを起こ

てんかん起こす脳の病気



当院のMRI室で脳腫瘍の手術を受ける犬

MRI普及で早期発見

す脳の病気にはいろいろあるの
ですが、私がよく出会う病気を
紹介します。

一つ目は「特発性てんかん」
です。1歳から5歳の若い子に
多いです。必要に応じてMRIを
撮影し、診断します。内服薬で
けいれんを抑える治療をしてい
きます。

二つ目は「特発性脳炎」と言
われる、免疫が関与する病気で
自分の脳を構成する細胞に、自
身の免疫が異常に反応してしま
うことで起こります。最近では
MRIの普及により生前での早期
発見ができるようになってしま
いました。けいれんを抑える治
療薬と免疫抑制剤で治療して
いきます。長期間生存するケ
ースもあります。

三つ目は「脳腫瘍」です。高
齢の子に現れ、MRIで診断し
ます。もちろん、命に関わる
怖い病気です。切除可能な位
置、大きさであれば開頭して
手術により治療できます。当
院でも8例ほど手術していますが
、長期間生存するケースもあ
ります。また手術できない部
位であれば放射線治療、また
手術後でも有効な場合があり、
当院でも放射線治療ができる
ように計画しています。

他にも脳梗塞が動物にも意外
と多いことが分かってきていま
す。人と同様に高齢動物で多
く、やはり診断にはMRIが必
要になってきます。

このあたりが比較的多い疾患
です。もし、あなたのペットに
全身性のけいれん発作がありが
ちでしたら、お近くの動物病
院で診察を受けてください。